

CASE 46

5歳児

「楽しいね お店屋さん」

協力園 竹田市立南部幼稚園

(これまでの経緯) 11月。子どもたちは、自然散策で拾ってきた木の葉や落ち葉、また園庭で集めたどんぐりやもみじの葉っぱなどを使い、自分なりに遊びに取り入れて楽しんでいました。また、ごっこコーナーでは、おうちごっこからお店屋さんごっこに発展する姿、製作コーナーでは、財布やお金を作って遊ぶ姿などが見られるようになりました。その中で、「お店屋さんごっこをしたい！」という思いが出され、みんなで「秋のお店屋さんごっこ」をすることに決めました。どんなお店屋さんをしたいかを話し合い、「レストラン」、「おもちゃ屋さん」、「ゲームセンター併設」、「ペットショップ」、「おしゃれ屋さん」の4つに決めました。子どもたちは、自分のやりたいお店を選び、商品作りを始め、看板やメニュー表、お金、財布、カード、レジなど必要なものを作り足していききました。

『レストラン』をすることに決めたH児は、友達が作っていたたこ焼きを見て興味をもち、自分も作ろうと材料を探し始めました。普通の卵パックより大きい紙製の卵パックを見つけたら、それを持ってきて、紙を丸めてテープで貼ってたこ焼きを作り、たこ焼き器に見立てた卵パックのくぼみに並べています。保育者が「たこ焼きやさんみたいに焼くのもいいね。」と言葉をかけると、自然物の材料コーナーの中から木の枝を2本選んで、たこ焼きをくるくる回して、本物のように作り始めました。そのうち「たこ焼き屋さんになるのに、エプロンがほしいな。」と話し、カラービニール袋でエプロンを作って、たこ焼き屋さんになりきる姿が見られました。

開店当日、H児はエプロンをつけて、木の枝を使ってくるくとひっくり返し、手際よく、たこ焼きを作っていました。小さな声で「いらっしゃいませ。」と声をかけますが、あまりお客さんがやってきません。そこで、保育者がお客さんになって買い物に行きます。すると、H児は「いらっしゃいませ。何個いりますか？」と接客し、保育者が「4個ください。」と注文をすると「お皿に入れよう。」と言って、作ったたこ焼きを2本の木の枝で上手につかんで「1、2、3、4。」と数えながらトレイに入れました。事前の話し合いで決めていた通り、H児はたこ焼きをお皿に載せて、テーブルまで運び、「どうぞ。」と渡した後、とても満足そうな表情をしていました。次のお客さんのときに、トレイに入れようとしたたこ焼きを落としてしまうと、それは別の場所に置いて売りませんでした。その後もたこ焼きを一つずつ作りながら売り、「いくらですか?」「10円です。」「2個ください。」「1個10円、2個で20円です。」などと、お客さんとのやりとりを楽しんでいました。

『おしゃれ屋さん』では、A児が服とネクレスと冠がセットになった商品を購入し着用しています。でも、冠が小さくてA児の頭のサイズには合わないのか、かぶらないまま買物をしていました。その姿に保育者が気づき、「Aちゃん、お洋服すてきだね！よく似合っているよ！」と言葉をかけます。A児は、「うん。でも、冠が頭に入らなかった。」「とちよつとがっかりした様子で言います。保育者は、「えっ！そうなの？ちよつと『おしゃれ屋さん』に行ってみようか。」と言いい、二人で『おしゃれ屋さん』に行き、店員さんをしてるK児に「Aちゃん、冠が頭に入らなかったんだって。」と伝えます。すると、K児も「そうなんよ。Aちゃんの頭には入らなかったんよ。」と答えます。そこで、保育者は、「そうなんだね。先生がかぶせてみていい？」とA児の頭にかぶせてみましたが、冠は調節ができない作りだったので、どうしても入りません。

保育者は、「ねえ、おしゃれ屋さん、この冠、伸びたり縮んだりできないみたいだね。」「何とかならないかなあ？」と問いかけます。すると、K児は、「あー！それなら輪ゴムをつけたらいい！ちよつと待ってて！作ってくるから！」と言いつつ、急いで製作コーナーに行きます。そして、ハサミで冠の後ろ側を切り、輪ゴムとセロハンテープを使って調節ができる冠に作り変えました。でき上がった冠を見て、「よし！」と小さな声で言う。また、急いで戻り、「できたよ！」とA児に笑顔で冠を渡します。

それを見て、保育者が、「Kちゃんありがとう！せつかくだから、Aちゃんにかぶせてあげたらどうかな？」と言いつつ、K児は、「いいよ！」とまた笑顔でA児の頭にかぶせてみます。A児も、小さな声で「ありがとう。」と言いつつ、鏡で自分の姿を見て、少し照れながら嬉しそうにはにかんでいます。保育者が、「うわあ、びったりだね！Aちゃん、良かったね！Kちゃん、上手に作ってくれてありがとう。」と言いつつ、K児は、「どういたしまして！」と満足した表情で答えました。その後、A児は、冠をかぶって、買い物へ戻りました。

遊びの後の振り返りでは、楽しかったこと他に、「なかなかお客さんが来てくれなかったから困った。」という発言がありました。それに対して、「でも、大きな声でいらっしやいませって言ったから、来てくれたよ。」というアドバイスが出されました。他にも「大きい声でいらっしやいませって言うー！」「またいらしてください、とか言ったらいいと思う。」「お客さんは、おもしろかったよって言ったらいい。」などの考えが出され、明日はそれやってみるようになりました。

翌日の「お店屋さんごっこ」では、店員さんの「いらっしゃいませ！」という元気な声が飛び交い、友達と一緒にお店を回る姿も多く見られるようになりました。ペットを散歩に連れて行き、途中で自分の服を買い、レストランにも立ち寄り子どもたちもいます。そして、レストランでは、ペット用のピザも注文し、自分たちも注文したピザをシェアして食べるという姿も見られました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

思考力の芽生え	協同性	数量や図形、標識や文字などへの関心感覚
社会生活とのかかわり		自立心

園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる。

事例から見られる10の育ち

社会生活とのかかわり

本物のお店屋さんらしくしたいと、『レストラン』では、たこ焼きやたこ焼き器、エプロンなどを、『おしゃれ屋さん』では服・ネクレス・冠のセットなどを工夫して作っている。また、「いらっしゃいませ。」「〇個ください。」などとお店屋さんとお客さんとしてやり取りや関わりを楽しんでいる。さらに、食べ物や落としたときの対処なども状況に応じて自分で考えて行っている。

お店に行った経験や買い物するときに見聞きした生活体験をいかして、より本物らしくしたいと考えて工夫し、遊びに取り入れている姿が見られる。

このような姿は、小学校生活においても、いろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする姿につながると思われる。

事例から見られる10の育ち

自立心

せつかく買った冠が頭に入らず少しがっかりしている様子のA児。K児は、保育者の「この冠、伸びたり縮んだりできないみたいだね。」「何とかならないかなあ？」という問いかけをきっかけに、輪ゴムをつけたら、うまくいくのではないかと考え、冠を作り変えている。これまでの経験から輪ゴムの伸び縮みする性質をいかしたらできそうだと予想を立て、自分の力でやってみようとする姿が見られる。さらに、急いで冠を作り変えるその様子や「よし！」「できたよ！」という言葉から、友達が喜ぶようにとすぐに行動したことがわかる。

また、振り返りの場では、楽しかったことだけでなく、友達が出した困りから、次はどうしたらいいかと皆で考え合う姿が見られる。このような経験が、小学校での自分でできることは何かと考えたり、自分なりの考えをもって課題に取り組んだりする姿につながっていくと思われる。

社会生活とのかかわり 自立心

保育者の援助・環境構成のポイント

- 自由に見たり、読んだりできるように、お店屋さんや秋の自然物に関する絵本を読み聞かせたり、絵本コーナーに設置したりする。
- 自分たちで選んで遊べるように、自然物や空き箱などの廃材、セロハンテープなどの道具を種類ごとに分けて十分な量を用意したり、子どもの要望や状況に応じたタイミングで素材や道具を提示したりする。
- 子どもたちの遊び方を見守り、共感したり一緒に活動したりする。
- 子どもたちが自分の思いを実現できるよう、試行錯誤する姿を見守ったり、一緒に考えたりする。
- 振り返りの場では、困りも出し合い、皆で考えを出し合い、解決できるようにする。

*本シートは、竹田市立南部幼稚園(市町村幼児教育アドバイザー在籍)の保育記録をもとに、県幼児教育スーパーバイザーが園内研修で助言を行い、共同で作成したものです。